

公民館・青少年ホーム を利用しませんか。



近年にない大雪に見舞われた飯山市民館

☆平成18年度 飯山市民館利用団体の認定申請を受け付けています。

公民館の行う事業の柱の一つに社会教育団体やグループ・サークルの育成・支援があります。その支援の一環として飯山市民館利用団体の登録があります。これは、仲間でグループをつくり、定期的に学習や文化活動を行う場合、公民館利用団体として登録していただく、公民館の使用料が減額となり、1年間定期的に公民館を利用できるというものです。

平成18年度に、飯山市民館利用団体として登録を希望される団体は、2月20日(月)までに飯山市民館へ所定の届出書等を提出してください。用紙は市民館にあります。これまで登録済の団体も更新の手続きをお願いします。詳しくは、飯山市民館へお問い合わせ下さい。

飯山市民館 Tel.62 3342

公民館利用団体として登録できる団体とは？

社会教育に関する事業を主たる目的とする団体で、構成員が8人以上で、そのうち市内在住者が8割以上の団体。概ね、次のような団体をいいます。

女性団体、青年団体、PTA、学関係文化鑑賞団体等

勤労青少年ホーム利用者募集！

若者が気軽に集まる遊び仲間づくりの場

☆勤労青少年ホームとは：働く若い(青少年)皆さんのために飯山市民館が設置している施設です。ホームには、体育館、音楽室、料理室、講習室、音楽談話コーナーなどがあり、個人でもグループでも自分に合う形で自由に利用できます。全館冷暖房完備、音楽室は防音化が施された画期的な施設です。

☆どんな活動しているの：余暇を楽しく有意義に過ごしていただくために、ホーム主催による各種講座を自由に受講できます。その他にサークル活動や利用者会主催による各種レクリエーション、交流会等に気軽に参加でき、お互いの親睦や仲間づくりが図られます。

☆サークル会員募集中：ホームにはさまざまなサークルの皆さんがそれぞれ活躍しており、新たなサークルや会員の募集しています。

☆利用するには：飯山市内に在住か市内に勤務する15歳以上35歳以下の働く青少年であれば、誰でも無料で利用できます。(その他の人も承認を得て有料で利用できます)

☆利用時間は：

平日：AM9時～PM10時 土曜：AM9時～PM5時

☆休館日は：日曜日、祝日、年末年始(12/29～1/3)

☆問い合わせ先 飯山市民館 Tel.62 3342

利用者声「よりよい朗読をめざして」

飯山子どもと本をよむ会代表

堀内久美子さん

子どもと本をよむ会は、昭和51年に公民館の中央婦人講座「子ども文化」受講者で結成され、今年30周年になりました。子育て真っ最中だった母親たちが、学習したことを子育てに役立てたいと歩き出したのです。

翌年、有線放送からの依頼を受けて「よい子の時間」がスタートしました。土、日を除く毎日10分を目安とする子ども向け本の朗読は、そのまま平成14年3月有線放送が幕を閉じるまで25年続きました。この活動がCATV「おはなしiネット」へと繋がり、4年前から今度は映像と共に絵本の朗読をしています。

この間いろいろな本を読む中で民話に関心が高まり、奥信濃のお年寄りを訪ねて昔語りを聞き、それをこの地の方言に再話して手作りの民話集「むかしあつたつちや」を五集作りました。20年がかりでした。先頃30年の記念にその総合版を発刊したところへ

市民芸術祭や芸術文化月間に朗読発表会をするようにな

続けたと思っています。

利用者声「コールかたくり」の紹介

コールかたくり代表

田中恒子さん

「コールかたくり」は生まれて3年目を迎える合唱団です。歌うことが大好きな仲間が集まり、毎週月曜日、市の公民館の講堂で練習をしています。沼田秀美先生を指導者に迎え、発声練習から始まり2時間たっぷり歌います。若い頃歌ったなつかしい歌、学生

利用者声「子育てセミナーに参加して」

山本伊都子さん

「おかあちゃん、今日どうみかん行く日?おべんきょうちる日?」セミナーが終わった今も、2歳の息子はときどき私に聞いてくる。母はもちろん、子にも鮮明に残る思い出のよう

だ。 ”たとえ1時間でもいい、子どもから離れた疲れはてていた一昨年。子どもから離れて、無我夢中の自分の「子育て」を振り

に参加と、舞台での発表もしてきました。昨年は初めてデイサービスセンターを訪問し、皆さんと一緒に歌いようこんでいただきました。今年、10月に「女性合唱団フィオーレ」と「コールかたくり」との合同コンサートを開く計画もあります。それに向けてこれから練習にはいります。

歌うことが好きな方はどなたでも入会できる会です。砂にしみいるように心に響いてくる毎回の先生方の講座。その余韻もさることながら、日々子育てに奮闘する皆さんのお母さんの姿に触れることができたこと。それが私には何よりの収穫だったように思う。

託児スタッフをはじめ、この企画を支えているすべての皆さんに心から感謝しています。どうぞ今年もよろしく!